

侵略戦争と植民地支配から始まった日本の近代。

天皇は、軍の最高責任者・大元帥でしたが、敗戦後も裁かれることはなく、

天皇の責任を問う声は、戦中は大逆罪・不敬罪などで処罰され、戦後も暴力の対象となりました。

「天皇は平和主義者だった」という認識は平成の30年の間にさらに定着。

「女性国際戦犯法廷」から20年の節目に、改めて天皇の戦争責任を問います。

主な展示内容

●姜徳景さんの生涯と作品

●「日本軍性奴隷制を裁く 女性国際戦犯法廷」をふりかえる

各国検事団の起訴と審理、最終判決、その後
NHK番組改ざん事件と日本社会の右傾化

●年表:天皇の戦争責任と民衆の抵抗

●現代の紛争下・軍隊による性暴力

「現代の紛争下の女性に対する犯罪 国際公聴会」とその後
戦時/軍隊の性暴力～兵士と責任者の刑事責任を問う



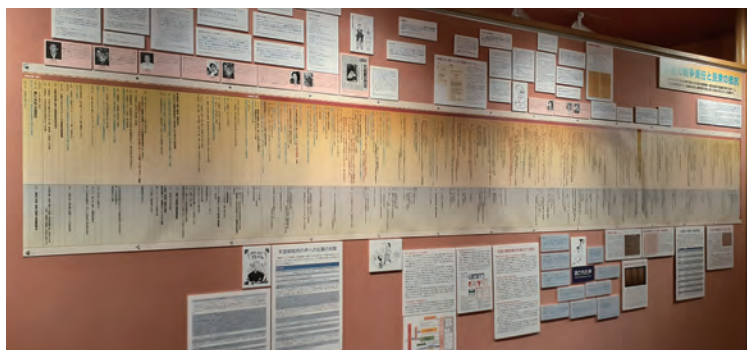
姜徳景さんの責任者処罰への強い願い、そして戦時性暴力の不処罰の連鎖を断ち切りたいという世界の女性たちの思いが「女性国際戦犯法廷」を後押しした。姜さんが描いた「責任者を処罰せよ」「奪われた純情」の原寸大レプリカ(協力:「ナムムの家」)も展示。



「法廷」の審理や、女性たちの証言、提出された証拠、最終判決の内容などをコンパクトに伝える。「天皇は知っていた、あるいは知るべきだった」と天皇裕仁有罪を認定した法廷の判決は今も色褪せない。



「判決」の勧告の実施状況を追いかけると、停滞どころか悪化した現実がある。それはメディアも同様で、法廷の国内外の報道落差やNHK番組改ざん事件が、政治に付度する現在の報道姿勢に繋がっている。



天皇が戦争にどう関与していたのか、戦後は自らの責任を軽くするために何をしたのかを、限られた情報を年表にすることで、天皇の戦争責任を可視化。年表の上下には、天皇制を批判、あるいは笑い飛ばそうとした、戦中戦後の民衆の小さな抗う声を紹介している。



「現代の紛争下の女性に対する犯罪 国際公聴会」と、戦争や軍隊による性暴力の刑事処罰をめぐるこの20年の動きを紹介。武力紛争下の性暴力の加害者を処罰するための仕組みはできても、実施には困難が付きまとう。しかし、世界の女性たちの闘いが希望と勇気を与えてくれる。

会員になりませんか？

●友の会年会費：3,000円 ●維持会員年会費：10,000円

会員にはニュースレター(年3回)のほかイベント案内などを逐次おしらせします。
維持会員は入館料無料。各種セミナーや刊行物の割引もあります。

郵便振替口座番号：00110-2-579814

口座名称：「私たちの戦争と平和人権基金」係

wam
アクティブ・ミュージアム

私たちの戦争と平和資料館
women's active museum on war and peace

開館時間：金・土・日・月 13:00~18:00

2月11日、2月23日、4月29日、11月3日は
「祝わない」ため閉館

休館日：火・水・木・祝日(天皇制由来の上記4日を除く)

※時間外の団体来館はご相談ください。
※展示入れ替え期間と年末年始は休館となります。

入館料：18歳以上 500円

18歳未満 300円

小学生以下 無料

※障害のある方の付き添いは無料です。

東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F 〒169-0051
T:03-3202-4633 F:03-3202-4634 E:wam@wam-peace.org
URL:https://wam-peace.org Twitter:@wam_peace

